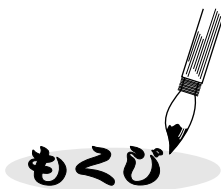


日工販ニュースVol.20 No.11・12



巻頭言「篤姫」	日工販理事 坂田 育文	2
JIMTOF特集「第24回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2008)開催」		4
「日工販国際レセプション」		
「日工販・調査広報委員会主催JIMTOF座談会」		
「印象記」 廣畑利治、畑中憲也		
メーカーインタビュー	中村留精密工業(株)	13
議事録「政策」理事会「調査広報」教育「製品研修会」ゴルフ会(東・西部)」 ...		16
お知らせ「日工販紹介パンフレット」		23
SE教育「SE講座集合教育・更新研修実施報告」合格者」		24
甘口辛口「工作機械業界の永久なる発展を祈って...」		
..... 三井物産マシンテック(株) 小川 慎一		26
工作機械と私	(株)山 善 倉又 陵平	28
リレー随筆	エヌティーツール(株) 杉浦 正典	29
統計資料「FA流通動態調査1・2」マシニングセンタ・NC旋盤動向」		
「工作機械受注高月別推移」工作機械業種別受注額」		30
お知らせ「セーフティネット緊急保証制度のお知らせ」		34
消息・行事		35
会員会社		36

“ 篤 姫 ”



日工販理事


坂 田 育 文

(株兼松KGK・取締役社長)

長年、NHK大河ドラマのファンです。振り返ってみると、30数年前より毎年見えています。

今年は「篤姫」で、最初見たときは主役が女優で、年代も若く、大奥の話かと思ひ、「今年は期待できないな」と感じました。ところが2～3回過ぎた頃より、だんだん面白くなってきて、今は楽しみの一つとなっています。

矢張り、歴史もの・人物ものは、実際に歴史上の実話に沿った話であり、非常に興味がある。その時々的人物が、その時々環境のもと、どのように対処し判断し、生き残ってきたかが見所である。多少作ったところもあるとは思いますが、その役を演じる役者によって、その人物像も違って感じられるところも面白いところ。ちょっと力が入りすぎる松坂慶子の幾島、2005年度NHK大河の「義経」の母役の方が良かったのでは？と思うが、ちょっときつめの稲森いずみの滝山、人望があった島津斉彬から、ちょっと人望がない島津久光の役目も損



な役回りか？とも感じる。

この宮崎あおい主演の篤姫もさることながら、徳川家定、徳川家茂、小松帯刀も非常に面白く演じていると思う。家定35歳、家茂21歳で亡くなったが、何故そんなに早死にしたのか？ 矢張り、トリカブトの毒殺説が本当と思わざるを得ない。その時代は矢張り、世継ぎと言うか、勢力争いと言うか、大変な時代であったと思われる。それ故篤姫の生き方、歴史が始まったのだが。

小松帯刀は、瑛太が演じているが、実物はまったく違う印象があり、どちらの人格が本物かも興味起こるところ。今まで歴史上あまり出てこなかった人物だが、当時、彼より下級武士であった西郷隆盛、大久保利通、他若手の意見をOPENに聞く力、薩長同盟を取り仕切り、大政奉還時、徳川慶喜に断固として説得した人物、当時帯刀は家老職で島津藩の重職、藩士20万人の将来を背負い、幕末の混乱時を、西郷・大久保他、過激な藩士を動かし、又、得体の知れない坂本龍馬も動かし、大変革を成し遂げた一人。大政奉還の際、各諸大名が口をつぐんでいる時、一人だけ進んで徳川家に政権奉還を主張し、説き進めた人物とある。その後、明治維新になり、数々の職位を加増や禄を辞退して、やり遂げた人物と聞くと益々興味が湧いてきた人物である。

この「篤姫」は、近年まれにみる視聴率を打ち出し、幅広い世代に親しまれているという報告もあるように、歴代の大河ドラマのファンである一人として、こうした傾向は非常に嬉しく思う。激動の時代を生き抜いた人物へ思いを馳せ、その生き様を目の当たりにし、古きよき日本人の魂を感じていただきたいと思う次第である。

第24回日本国際工作機械見本市 JIMTOF2008開催



10月30日(木)より11月4日(火)までの6日間、東京ビッグサイトで次世代を見据えて「地球に、未来に、優しいモノづくり」をテーマとして第24回日本国際工作機械見本市JIMTOF2008が開催されました。15カ国・地域から582の企業・団体が5,231小間に西館に増設館を作り前回を上回る最大規模のJIMTOFとなりました。9月に開催されたIMTS2008の影響もあり不振な自動車産業向より好調な航空機、建機、風力発電、エネルギー産業向の大型の複合加工機、5軸加工機の展示に力が入っているように見受けられました。

国内外はここに来て米国発世界規模の金融危機の状況の下、厳しい環境ではありましたが、また1日の時間は長くなりましたが会期を6日間に短縮したにもかかわらず、前回の130,908人を上回る142,408人の来場者となりました。(尚、重複来場者総数は169,381人です。)

会期中ビッグサイト内会議棟では「モノづくり」の世界を様々な紹介する多彩なイベントが開催され、更に会場内には一般展示に加えて熟練技能者による機械式腕時計の組立実演があり、輝く匠の技「磨き」技術の展示、学生対象インセンティブセミナーなど同時開催をして注目を浴びていました。また出展者は会議棟で独自のワークショップを開催し最先端の技術ソリューションを発表していました。

日工販では11月1日に欧米、アジア諸国の工業会、販売協会の方々をお招きして国際委員会企画の国際レセプションを開催し当会員との国際交流を図り親睦を深めることができました。また11月3日には前回に続いて調査広報委員会主催の座談会を開催し、今回は当委員会メンバーが主力となりテーマを「出展者の主点はどこにおいているか。コンセプトは何か。」に絞りお話ししていただきました。

当協会主催のイベント詳細については別途掲載いたします。



日工販国際レセプション

日 時：平成20年11月1日(土) 12:00~13:30

会 場：東京ビッグサイト会議棟1階102号室

出席者：海外11団体14名、国内7団体18名、報道3社4名、会員23名、事務局3名 計62名

国際委員会企画により、内外関連団体役員をお招きして国際レセプションが開催されました。宇佐美専務理事の司会進行で取り進められ、尾瀬会長より歓迎の挨拶と共に配布資料に基づき日工会発表の工作機械受注推移と日工販動態調査をこれまでの経緯を踏まえて説明がありました。来賓を代表して(社)日本工作機械工業会会長中村健一様よりご挨拶を頂き、続いて中村会長ご発声により乾杯となり歓談がスタートしました。限られた時間でしたので今回は歓談の時間を多く設けましたが、尾瀬会長、富田国際委員長を始めとする国際委員、正会員と内外関連団体役員との工作機械情勢などの意見・情報交換が繰り広げられ交流を深めることが出来ました。

尾瀬会長歓迎挨拶(邦訳)

日本工作機械販売協会会長の尾瀬です。

本日は国際レセプションということなので英語でご挨拶致します。

会員を代表して日工販国際レセプションへ世界各国からご出席の皆様を歓迎致します。



約2カ月前にシカゴで開催のIMTS2008においては米国工作機械販売協会主催の国際会議でここにご出席の何人かの皆様と一緒でしたが、すでにその時ですら今年の世界規模で工作機械市場がスローダウンの兆しがあり沢山の先行き不透明さがあることを認識していました。然しながらその時から経済状況は一変し特に金融市場では劇的な変化があり、これは工作機械業界を含めたいわば实体经济に対し大変な影響を及ぼしています。

後ほど最新データをご紹介しますが、この9月には日本の工作機械市場は世界の他の市場同様に受注が極端に落ち込みましたが、この状況はここ暫く続くであろうとみています。

このようなグローバルな金融危機のさなかですが、JIMTOF2008はタイムリーであり意義があるものと思います。私達は最新技術や製品に関し顧客と直接話し合うことができ、そして業界の情報を分か



ち合うことが出来る場と思います。

本日は多くの日工販会員が出席しており工作機械業界の現状と見通しに対しこの機会に意見と情報を交換していただきたいと思います。

皆様がこのレセプションを楽しまれ、JIMTOF2008への訪問が実り多い結果となることを望んでいます。

ここで簡単に最新の工作機械市場動向についてご説明します。

(配布資料に基づいて、1990年から2008年第3四半期までの日工会発表内需・外需受注の推移、2006年よりの各月の内需・外需受注推移そして日工販動態調査より2005年からの四半期ごとの地域別、業種別予測傾向など説明。)

私が最も関心を持ち、危惧することはみんなが不必要に^アびく^アびく^アすることです。

これは米国の高官あるいはエコノミストが新聞紙上で同様なことを述べていたのを目にしましたが、最後に申し上げたいことはあまり怖がらずにもう少し楽観的になって欲しいということです。

すでに昨日で5万人以上の来場者数となり記録を更新しておりますがJIMTOF2008の成功と皆様の成果を祈念してご挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶：(社)日本工作機械工業会会長 中村 健一様

ただいまご紹介に預かりました、日本工作機械工業会会長の中村でございます。本日はお招きいただき誠に有難うございます。

今ほど、尾瀬会長のお話にもありましたように世界経済は大困難であります。回復には少々時間がたっても仕方がない感じです。どの辺に落ち着くのか、いつごろ落ち着くのか今の関心事でございます。

経済産業省の米村課長様をはじめ関連の方とお話を致しておりますと、2年間位は辛抱とのお話もありますし韓国は1年位、イギリス等は1年半位で、2年前後が意外と多く、そうした中で我々JIMTOF2008が開催された訳ですが、尾瀬会長のお話しにもありましたようにお客様がたくさん来られております。初日の数字が前回は10,949人が今回19,972人、2日目は19,597人が31,149人で3日目は4万人を軽く超えて多分5万人に近いお客様がお見えになると思われれます。そういったお客様は大変真剣で懸命に機械に関心を持っておられ予想以上の力強いものを感じております。私どもはJIMTOF2008が11月4日迄そのままの勢いで進んでほしいと思いますし、またその中で経済が少々悪くてもこういう時こそ先端技術かつ生産性の高い機械が売れますのでJIMTOFを機に大いに頑張っていたきたいと思っております。また元気を出さないと良くならない訳で元気を出してこのいささか厳しい時期ではありますが頑張りたいという思いであります。

皆様のご繁栄とご健勝を心から祈念いたしまして乾杯に移らせていただきます。

日工販の皆様をはじめ、ご臨席の皆様方のご繁栄とご健勝を心から祈念するとともにJIMTOF2008が盛況に終わることを願ひまして乾杯させていただきます。



日工販調査広報委員会主催JIMTOF座談会

日 時：11月3日(月) 16:00~18:00

場 所：ビッグサイトA2ホール会議室2

議 題：< JIMTOF2008を見て >

「出展者の主眼はどこにあったのか。その展示コンセプトは何だったのか」

出席者(敬称略)

田尻 哲男 (株)TEMCO 常務取締役(調査広報委員会座長)
 高橋 昇 伊藤忠メカトロニクス(株) 東日本営業部担当部長
 君村 義人 伊藤忠メカトロニクス(株) 東日本営業部部長代行
 若林 良直 (株)TEMCO 東京支店支店長補佐
 小岩井弘之 (株)トミタ 総務部次長
 菊池 一雄 (株)ナチ常盤 営業部部長
 内田 和也 (株)ナチ常盤 太田支店副支店長
 森田 一志 (株)牧野フライス製作所 販売推進部セクションマネージャ
 福島 透 GEフィナンシャルサービス(株) 工作機械第一部部長

< 司会 >

宇佐美 浩 日本工作機械販売協会 専務理事

JIMTOF2008は盛況のうちに幕を閉じたが、日本の工作機械業界のあり方に新たな方向性を感じさせた6日間でもあった。この中で、各出展者は出展の主眼をどこに置き、どのようなコンセプトを主張したかったのだろうか。日工販調査広報委員会の委員の方々を中心に集まっていたいただき、主に販売者としての目から今年のJIMTOFを振り返っていただいた。今後の市場を考えるヒントになれば幸いである。

熱変位への対応など精度をさらに追求

司会 今回のJIMTOFは本日までの5日間で前回の13万人に並ぶ来場者数(最終来場者は17万人)を記録しました。シカゴショー2008の9万2千人に比べても、いかに盛況であるかがわかります。このような中で、出展者は出展の主眼をどこに置き、何をコンセプトとして出展していたのか。皆様の目から見た率直な感想を語っていただきたいと思います。まず、田尻座長から全般的な感想をお願いします。

田尻 世界的な金融危機が实体经济へ大きな影響を及ぼしている中で、今回多くの来場者があったことは、今後のモノづくりへの期待がいかに大きいかかわりました。今回の見本市のテーマは次世代を見据えての「地球に、未来に、優しいモノづくり」でしたが、その1つは環境であり、もう1つはモノづくりですね。出展者のコンセプトもここにあったと思います。さらに言えば、従来のように自動車向けばかりでなく航空機、医療、エネルギー向けなどへと対



座長の田尻委員長(右)と司会の宇佐美専務理事(左)

象が広がっていました。ある意味で、工作機械業界も転換期にあると思われます。牧野フライス製作所さんはメーカーでもありますが、どうぞ覧になりましたか。

森田 田尻座長が言われましたとおり、自動車以外の分野をターゲットにした展示が多かったと感じております。5軸制御マシニングセンタや複合加工機が多数出品され、これらの展示は、今後需要が期待できるマーケットへの訴求になっていたと思います。

当社の展示テーマは、金型加工、航空機部品、試作部品、自動車の量産部品など、それぞれの分野で必要な加工精度としました。来場者には加工サンプルや測定データをご覧いただき、工作機械の加工精度が進化していることを訴求できたものと思っております。

高橋 全体的に見ると基本は「高精度」「高剛性」「多機能複合化」にあります。今や旋盤ベースの複合機とマシニングセンタとの境がなくなっています。研削盤の世界でもこの傾向があり、当社も同時5軸で最小分解能10ナノメートルの研削盤を展示しました。超硬材の絞り金型や歯車関係をターゲットにしております。精度面において研削盤はナノメートルの世界に入っています。

君村 従来、歯車関係の金型加工は、ワイヤ加工した後を手作業で磨き仕上げでしたが、今回の同時5軸研削盤は仕上げワイヤ加工及び手磨きを省き、研削加工のみで製作出来る新たな構造のものです。

森田 日本の工作機械メーカーの差別化のポイントは精度にあると思っておりますが、環境温度の変化や機械の自己発熱による精度低下に気を遣っているメーカーが多くなっています。機械本体の姿勢変形を冷却により抑制する機能や補正する機能など長時間にわたり高い加工精度を安定させるものです。

田尻 オークマさんは「オークマ亭笑熱」という落語家の名前で落語をやっていました。町工場のクマさんが「環境の悪い工場で精度が出なくて困った」というもので、これに対してご隠居が熱変位に対する重要性を語っているのですが、面白かったです。

若林 熱対策には皆さん苦労しているようです。排熱するにはエネルギーが必要となりますが、それで省エネになるのか。でも高精度を維持するためには、やらなければならないというジレンマがあります。

田尻 ナガセインテグレックスさんのキャッチフレーズは「精度も大事。能率も大事。できます両立」というもので、究極の考え方を表しています。

メーカー同士の共同出展も目立つ

司会 今回は、主要メーカー同士の共同出展も話題になっていました。シチズンマシナリーさんとミヤノさんはそれぞれの機械で加工した部品を組み合わせると1つの製品を作る実演をしていました。

田尻 不二越さんは「工作機械と工具のコラボでECOを追求」というキャッチフレーズでしたね。コラボレーションでの出展は目立ちました。

菊池 私は今回、不二越さんのアテンドだったのですが、不二越さんはGPA(Gear Production Alliance)としてカシフジさんと神崎高級工機製作所さんとの共同出展で、ロボットを使って自動化した歯車加工ラインなどを展示し、注目を集めました。

内田 ロボットによる搬送は省スペース、省エネになり、環境にもいいわけです。



左より森田氏、福島氏、小岩井氏

菊池 不二越さんとの関係もあるのでロボットを多く見たのですが、出品数は前回より倍増していたようです。これからも増えると思います。

内田 ロボットは目立ちました。ローダシステムへの応用などはコスト的にもメンテナンス的にもよい。

森田 ファナックさんは大型ロボットを展示し、鋳物部品を軽々と持ち上げてセットする

実演をしていましたが、ロボットはますます進歩していきそうです。

若林 クルマや建機関係ではブランド的には「コマツ」とクランクシャフトの「日平トヤマ」の共同展示がありました。統合した両社は今年10月に「コマツNTC」になったばかりでした。

君村 そのオートローダのラインは注目されました。特にローダーですがトロリー方式で走行部分のケーブルベアが廃止となっております。このローダーは興味深いです。

若林 ロボットではありませんが、ほかに面白いと思ったのは、CCDカメラをワークの着脱などいろいろなところで使っていることです。なるほど投影機で見るより省エネになる。また、ボールスクリーウを使わずにリニアモータを使って駆動する方式もいろいろなメーカーで見られました。

自動車のほか航空機、医療、エネルギー分野も重視

司会 従来は自動車関係のアプリケーションが多かったのですが、今回は航空機、医療、エネルギー関係向けなどのアプリケーションが目立ちました。その中でまず航空機向けについて、どう見られましたか。

高橋 航空機分野においては炭素繊維構造部材や耐熱合金製のエンジン部品加工用マシンのウエイトが高かったです。あとは新日本工機さんなどチタンの切削加工機です。従来は研削が一般的でしたが今は切削が主流で、これだとランニングコストもメリットが出てきます。

司会 素材メーカーの三菱マテリアルさんも航空機部品用加工の特殊工具を展示して、機械加工の技術力をアピールしていました。工作機械メーカーによって受け止め方が違いますが、「航空機向けを期待はしているが、あまり大きな市場とは考えていない」というのが大勢のようですが、我々としては期待したいところです。

若林 ただ、三菱重工業さんやHIさんなど航空機エンジンは好調のようで、けっこう忙しくなるのではないかと思います。

福島 ある中小企業が旋盤ベースの複合機を入れたのですが、その目的は今まで手がけていなかった「航空機部品加工の仕事をするため」ということでした。必ずしも儲かるわけではないらしいのですが、何でやるのかとお聞きしたら、要は「技術力を高め他社との差別化を図りたい」ということでした。そういうお客様は比較的増えていると思います。

小岩井 航空機の仕事が末端の工場にまで行き渡っているのですか。

田尻 中小企業としても難しい加工でも取り組まねばならない。そうしないと小規模な工場でもやっていけない。ただ、実際には自動車関係向けがまだ圧倒的に多いです。

高橋 日本の産業として自動車産業はやはり重要です。今回、自動車向けより航空機向けなどのイメージが強くて出ていましたが、これは現状の市場が表れているものと思います。

司会 医療関係では人工骨関連が目を引きました。例えば三菱電機さんのワイヤ放電加工機です。ステンレスやチタン合金など、機械加工が難しい材料でも高精度加工できるという工作機械の特長を医療分野にも生かそうというものです。

田尻 前回にも、人工骨の加工の展示がありました。

高橋 ただ、日本では厚生労働省の認可の問題があります。アメリカでは承認されているので、アメリカで作って逆輸入するという現実があります。

君村 アメリカでも、加工している機械は日本製が多いです。

田尻 中村留精密工業さんも、複合加工機のアプリケーションの紹介で人工骨への加工について説明していました。それもアメリカでの仕事と言っていました。要は、複合加工機での複雑な加工への可能性を説明しています。



左より高橋氏、君村氏、若林氏

司会 エネルギー関係では、例えば三井精機工業さんは、風力発電用のベベルギアを高精度加工できるマシニングセンタを展示していました。これは航空機のエンジンなどの回転翼用にも使われるようですが。

君村 これから風力発電用等大径ベアリングの需要が相当増えており、各メーカーとも立旋盤の開発・販売に力を入れています。

若林 ベアリングメーカーさんも、風力発電用のベアリングに力を入れています。

ブースでのプレゼンテーションに数々の工夫も

司会 ところで、今回もナガセインテグレックスさんなどのように実演に力を入れてアピールしているブースが多かったのですが、特に目を引いたプレゼンテーションはありましたか。

福島 森精機製作所さんはブース内で『切削加工ドリームコンテスト』の発表と表彰式をやっていました。もう5回目だそうです。部品加工や微細加工など4つの部門がありましたが、形状的に面白いのは金型・造形加工部門の作品で『卵の殻』のアートなどがありました。

田尻 主催者の日工会は漫画雑誌の連載漫画『ナッチャン』とタイアップし、学生向けなどに工作機械を紹介する漫画冊子を配布していました。お父さんが遺した鉄工所を切り盛りする女の子の奮闘を描いたものです。

小岩井 そういうPR方法は、工作機械に対する一般の人の理解と関心を広く得るためにいいと思いますね。

新たな技術に挑戦する中小企業の熱意に応える必要

司会 こうした中で、来場したお客さんのほうの反応はどうだったのでしょうか。

高橋 お客さんの表情には、真剣なものを感じましたね。しかし、このご時勢なので『価格はどうなの』ということです。工程集約や付加価値のある製品加工の為5軸機など入れたいが、先の見通しがつかないと導入の決断はできない。大手ユーザーさんは長期的な設備計画を立てていますが、中小企業では“仕事がないので今はちょっと”となる。

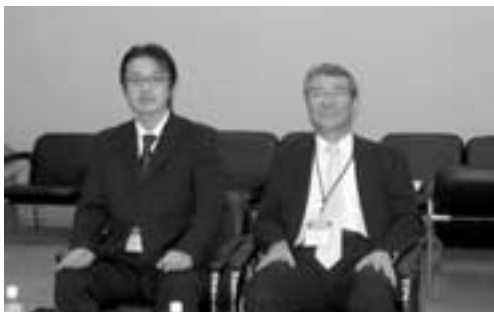
田尻 お客さんは『自社の付加価値を高めていかないと』と見に来ていますね。生き延びていくには何かしなければなりません。機械を見る目も真剣になります。

福島 来場者が多かったのは、そういう理由によるものかもしれません。特に中小企業のお客様は以前にも増して強い目的を持っていたように思います。

司会 やはり、5軸加工機への関心が高かったですか？

森田 5軸加工機導入の問題として、CAD・CAMがネックになることがあります。しかし、プログラミングは相当進歩しましたし、工具も進化が見られますので、操作性は一段と向上しています。今や、メーカーとして中小のお客様へも提案できるレベルにきています。

若林 複合機に使うNC円テーブルなども、津田駒工業さんのように高剛性・高精度・高速度のものが出ています。



左より内田氏、菊池氏

福島 リース会社から見ても、複合加工機はもう当たり前のようになってきていると感じます。これからは導入に当たって、どういう機械を選別するかですね。中小企業のお客様は今までやっていなかった難しい加工をやってみようということで、挑戦意欲が高まっています。我々は、そういう事情を理解して、資金面などでのニーズにも応えていかなければならないと思います。

小岩井 当社も一生懸命PRしていますが、中小企業のお客様の環境は厳しいといわれているなかで新しい

技術を取り込もうとする意欲を感じました。

田尻 各メーカーは「環境にやさしいモノづくり」に懸命に取り組み、その技術を磨くことで省エネとともに高精度・高能率を実現しています。また、ユーザー側も、この技術の進歩を貪欲に取り入れようとしています。今後、実体経済はさらに冷え込むことが予想されますが、こういう時にこそ我々日工販はメーカーさんと力を合わせ二人三脚でユーザーさんに提案していくべきだと思います。

司会 今回のJIMTOFを振り返ることで、工作機械業界の今後の展望を見ることができたように思います。本日はどうもありがとうございました。

JIMTOF印象記

キー・ワードは“change”

オークマ(株)

大阪支店長

廣畑利治



それぞれの思いを感じながら6日間のJIMTOF2008が規模(展示スペース、出展者数)、来場者数ともに過去の記録を超えて閉幕した。

開幕前には2001年9月11日(9.11ニューヨーク・テロ)に続く、又も9月度の9.15(リーマンショック)の金融危機後のタイミングであった為心配されていたが、約17万人が来場され、次の飛躍に対する設備検討をされている様子が会場内につながった。

現場でアテンドさせて頂き、感じたこと、そして工作機械ブースのみの見学であったが思ったことについてレポート致します。

先ず全体的には、金融ショックが世界中に激震となり走っている最中にモノづくりの価値が再認識される機会となったのは確かな成果であったと思います。

減産、減少、減収、減益は避けて通れないものであるが、減るものに対して何をなすべきか?を問われている。その問いについて答えられるものがJIMTOF会場にあったのではないのでしょうか。

そのキー・ワードはチェンジ「change」と言える。

次期米大統領のオバマ氏はこの言葉を変革として捉えておりますが、我々の業界はまさに取り替える「更新」の絶好のチャンスとする為の複合加工機であり、複合旋盤、5軸加工機のそれぞれの展示が出来たのであり、そこに知能化技術が生かされたものも数多くあった。

全自動から半自動化技術。

ライン編成の見直しから複合加工機への置き換え、ローダーからロボットへの変換。

つまりフレキシブル対応(柔軟性)が求められている。

ある自動車メーカーの幹部は先行技術と言える戦略投資は削らないと言われている。

このピンチをチャンスにつなげるものは「チェンジ」です。更新設備の個別提案ではないでしょうか。

最後に、次の2010年のJIMTOFに向けて期待することは、今回少し残念だった新製品、新商品が少なかったことがあげられるので、次回求められている戦略投資として叶う機械が登場となれば...と願う次第である。

JIMTOF印象記

『活気』のある展示会

三菱電機(株) 関西支社
産業メカトロニクス部
畑 中 憲 也



今回のJIMTOF2008は、世界的な市況低迷に加え、会期の短縮(8日→6日)にも関わらず、前回(2006年)を上回る来場者があり、一言で言って『活気』のある展示会であった。これまで『技術のEMO、ビジネスのIMTS』と言われるが、IMTSと同じ年に開催されるJIMTOFは本来であれば商売中心となるべき。但し、今回は9月15日のリーマン・ショックで環境が一変、ちょっと様相が違う。このような状況下でJIMTOFが盛況だった理由はなにか。各社とも生き残りを賭けて今後の投資テーマ模索、直近の設備検討ではなく将来に備えた最新技術動向の把握、仕事量減に伴う時間的余裕、老朽化に伴う既設設備の更新時期到来などが考えられる。

さて、JIMTOF2008での工作機械各社の動向のキーワードは『大型化』と『タクト短縮』。各社とも大型機を強調した展示であり、世界的な景気失速の中にあっても潜在的な需要拡大を期待されるエネルギー・航空関連設備をターゲットにする動きが顕著であった。タクト短縮による生産性向上への取り組みは、マシニングセンタは『5軸(面)加工機』に取り組む機械メーカーが増加、大小合わせ約20数社が展示、工程集約による生産性向上を実現している。また5軸(面)加工用CAMの進歩もめざましく、エンドユーザーが5軸(面)加工機の導入を容易にしている。旋盤ではリングワークを対象とする加工で『平行2スピンドル旋盤』への取り組みが増加していた。機械間口を小さくできる構造を活かし、ガントリーによるワーク搬送時間の短縮を実現している。

放電加工機各社の動向のキーワードは『環境』&『エコ』。各社とも新電源による消費電力の削減、消耗品のリサイクル・リユース、ワイヤー使用量の低減等、機能性能向上と併せてPRしている。当社ブースでは協会テーマの『地球に未来に優しいモノづくり』を受け、『Technology & Ecology』を統一テーマとし、『エコ』を前面に押し立てて展示を行い、他社に先駆け『環境を意識した企業』であること訴求している。

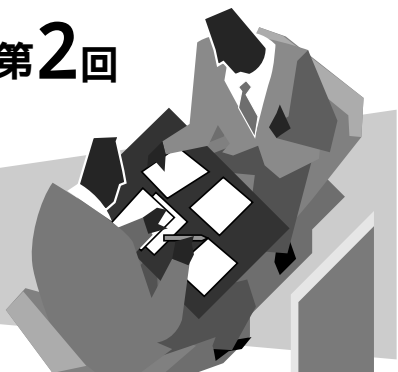
レーザー加工機各社の動向のキーワードは、『生産性向上』。各社ともノズルチェンジャを搭載したレーザー加工機システムで、薄板から厚板まで各種材料の無段取り連続加工を実演。仕事量を確保し、生き残りを賭けるユーザにレーザー加工機の高さを強く訴求している。

最後に、当初の予想以上にJIMTOF2008は盛況で終わったが、市況は直下型地震に見舞われ、暫くは厳しい状況が続くと予想される。このような時は、まずは『マグニチュード』の程度を考えるのではなく、慌てず、騒がず、我々がやってきたことをしっかりやり遂げること、さらには、『強い製品を生み出し、商売を増やすこと』に注力していきたい。



メーカーインタビュー 第2回

メーカーに聴く プロのこだわり!



中村留精密工業(株) (本社・石川県白山市)

マシニングセンタを超える“超高複合加工機”で、
多品種少量生産から大量生産までのニーズに応える

「メーカーインタビュー」第2回は、石川県白山市に本社を置く中村留精密工業株式会社。

同社は1949年(昭和24年)創業で、現在、工作機械部門と光学機械部門を2本の柱にグローバル展開する北陸屈指の企業である。その中で特に、多品種少量生産から大量生産まで対応する「超高複合加工機」は産業界の高生産性ニーズに応える機種として欠かせない存在。

同社のマーケティング戦略と機械メーカーとしての「こだわり」について、常務取締役営業本部長の木越清彦氏に伺った。



工作機械メーカーとしての「こだわり」を語る木越常務取締役営業本部長

様々な複雑な加工を“1機で一気に”完結

同社の現在の売上構成は、工作機械部門70～80%、光学機械部門20～30%だという。工作機械部門について木越常務は「主力はズバリ“複合加工機”で、現在はマシニングセンタを超えた新しいジャンルの“超高複合加工機”へと進化しており、この分野に特化した製品開発をさらに進めています」と切り出した。

工作機械は大きく分けて、加工する素材を回転させて切削する旋盤系と、素材を固定させて切削するフライス系があるが、この両方の加工を1台で行うのが複合加工機。

同社は1989年(昭和64年) それまでの旋盤にはない対向型2スピンドル旋盤TW-20を発表し、それ以来、量産分野をターゲットとした量産対応型複合加工機の開発に取り組んできた。「かつては工程を集約すれば遅くてもしょうがない」と受け入れられましたが、最近は“しょうがない”では済まされません。より高い生産性を求められ、専用機と同じ加工タイムが要求されます」とのこと。

現在、多様な加工バランスワークに対応できる上下2タレット構造のWTシリーズや3タレットのSuper



超高複合加工機 Super NTY3 JUMBO

NTM3をはじめ、今年のJIMTOF2008にも出展したSuper NTY3 JUMBOなど多彩な機種を揃えている。

これら機種は、「マシニングセンタ機能だけでなく、ボブ(ギア)加工、キー溝加工、高硬度加工などを“1機で一気に行うことができ、従来機より単純加工なら2倍、複合加工なら10倍を超えるスピードで完成品にします。高生産性を求める産業界のニーズに応えたものです」と語る。

技術を生かして光学機械分野へも進出

同社の創業以来の歴史は今や伝説的といえる。

1949年(昭和24年) 中村留男氏が夫婦2人で創業。まもなく油溝切り旋盤を開発し、次いで航空機の脚が油圧で上げ下げされていることをヒントに油圧タレット旋盤を考案。油圧と電気のコンビネーションにより自動化したこの画期的な製品は大ヒットした。ここに今日の工作機械メーカーとしてのルーツがある。現在、工作機械の納入先は重厚長大といわれる造船、プラント建設、建設機械から自動車業界、さらにIT、家電、住宅、医療機器など多岐にわたっている。

1988年(昭和63年)に就任した中村健一現社長は、この切削技術を軸に経営の多角化を図ろうと、1992年(平成4年)にガラスディスク加工分野に進出し、翌年には液晶ガラス加工分野にも進出した。現在、この光学機械分野の代表的な機種としてNC複合研削機OCS-60NC、液面ガラス面取ラインNCF-950などがあり、これらの機種は光学レンズ加工、パソコンやテレビの液晶パネル加工などに幅広く用いられている。

このように工作機械と光学機械の両部門で着実に進展していることについて木越常務は次のように語る。「何とんでもなく「マーケット・イン」の発想ですね。これを大切にしています。製品を“売る”のではなく“買っていただく。それには市場やお客様ニーズを的確にキャッチし、我々の高い技術力を結集させて製品開発にあたらなければなりません。そして品質・精度を追求した機能、独創的な機構を満載した魅力ある製品をお届けしていきたいと思っています」。

これまでに、中小企業庁長官賞受賞(1966年)、科学技術庁長官賞受賞(83年)、昭和天皇行幸(同年)などが同社の歴史を彩り、2005年(平成17年)に中村社長は(社)日本工作機械工業会会長に就任した。

「製品」「機械作り」「人材」への3つのこだわり

同社は海外進出にも積極的で1980年にナカムラトメ・アメリカを設立し、現在ドイツ、イタリア、フランス、イギリスなどに拠点を構え、同社製品は海外で「トメマシン」として親しまれている。今や

世界ブランドとなった工作機械メーカーとして、木越常務は「製品に対するこだわり、機械作りに対するこだわり、そして人材に対するこだわり。この3つにこだわっていくことが、これからも当社にとって重要だと思っています」と強調する。

製品に対しては「90年代は大量生産時代の最盛期でしたが、我々はその量産指向に応えながらも、実は多様化するユーザーニーズへの対応を検討していました。事実、自動車業界では市場ニーズの変化とともに大量生産から多種少量・変種変量へと変化していきました。このような変化を先読みしながら複合加工機に取り組んできたのです」。また工場設備としての機械作りへのこだわりについては「国内外の最新鋭機を積極的に導入していますが、その機械の設置時においては機械の特性を考慮して据付設置面や治工具の固定面などを、複合加工機を作るときと同じようにキサゲによる摺り合せを行うなどしています」とのことだ。また、温度と湿度を管理する恒温室仕様の工場も備えている。

人材に対しては「一企業としてだけでなく、日本の製造業全体の人材育成という観点から考えています」とのこと。技術職は国家技能検定、営業職はビジネス・キャリア取得などを支援する。後進の指導への取り組み強化としてはマイスター制度を取り入れているが、昨年は卓越した技能者に与えられる「現代の名工」も社内に誕生したという。また、中村社長は日本工作機械工業会会長として、経済産業省を通じて「産学人材パートナーシップ委員会」や「人材確保研究会」を発足させ、日本のものづくりへ力を入れている。

「当社はこのような“こだわり”を持ちつつ、日本の基幹産業である工作機械業界が今後も世界一であり続けるように頑張っていきたいと思っています」と木越常務は結んだ。



中村留精密工業の本社社屋



最新鋭工場

議事録から

第78回 政策委員会

日時：11月12日(水) 14:00～15:00

場所：名古屋/安保ホール 402会議室

出席者：尾瀬委員長、委員7名、専務理事、
事務局2名

委員長挨拶：

本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。

本日は定例理事会・懇親会を予定しております。議題に入りますが、ご審議よろしくお願います。

議題：

(1)平成20年度上期収支報告

専務理事より説明。増田会計士による会計監査が11月5日行われ三橋監事が立ち会い、その結果、問題なしと報告された。

(2)日刊工業新聞主催「2009自動車部品生産システム展」協賛依頼の件

例年協賛している展示会であるが、理事会に諮り承認を得ることにした。

次回委員会：

平成21年3月11日(水) 13:00～

大阪/大阪創造産業館

第218回 定例理事会

日時：11月12日(水) 15:00～17:00

場所：名古屋/安保ホール 101号室

出席者：尾瀬会長、理事18名、専務理事、
事務局2名

会長挨拶：

今週始め日工会より10月度受注速報の発表があり、昨年同月比約40%減の810億円と6年9カ月ぶりの大きな落ち込みとなった。

また日鍛工の10月度受注発表があり、昨年同月比55.7%減と約200億円から79億円へと大幅な下落の状況、たまたま昨日、日鍛工の60周年記念祝賀会に出席してお話を聞きしましたが、20億円位の大型油圧プレスのキャンセルも一つの大きな要因であったとの事で、これを除

くと約40%減となり日工会と同じ状況との話がありました。

もともと日工会発表の受注額が私達の景況感に比べて差がありましたが、9月から一挙に落ち始めて、この10月では予想よりも大きく落ち込んだ感じで、急激な落ち込み感が続いているのが現状と思います。

議案のご審議よろしくお願います。

議題：

[付議事項]

(1)日刊工業新聞社主催「2009自動車部品生産システム展」協賛の件

専務理事より説明。例年通り日工販として協賛することで審議の結果、承認された。

「報告事項」

(1) 平成20年度上期収支報告

11月5日の監査結果について下野監事より特に問題が無かった旨報告。

専務理事より詳細報告と補足説明があった。

(2) 流通動態調査平成20年9月結果

専務理事より報告。動態調査1の9月受注報告は、前年同期比で落ち込みが大きかった日工会発表の9月受注に比べ大きな変化はなかった。

工作機械・FA流通動態調査2については3カ月前の前回結果に比べ更に見通しが厳しくなっている。

(3) 委員会報告

調査広報委員会：田尻委員長欠席のため専務理事より報告。

9/24 機械工具会館 9名出席。

日工販ニュース11・12月号の編集内容を確認。日工販パンフレット完成のための最終内容チェックを実施。

11月3日開催のJIMTOF座談会は調査広報委員が中心となり委員会社より数名参加、実施した。日工販ホームページのリニューアルを進めている。

西部地区製品研修会：赤澤委員長報告。

10/1 エル・おおさか 77名参加。メーカー6社の協力を得てJIMTOF出展機の説明。

東部地区製品研修会：柴田委員長報告。

10/7 仏教伝道センター 46名参加。メーカー5社の協力を得てJIMTOF出展機の説明。

東部地区懇親ゴルフ会 11/11 東京よみうりカントリークラブにて実施。16名参加。

中部地区製品研修会：高田委員長報告。

10/8 名古屋ダイヤビルディング 79名参加。

メーカー7社の協力を得て5軸加工機の最新動向についての説明。

また12/9は工場見学会を予定、バスを使用し

40名の参加を見込んでいる。

SE教育SE講座・更新研修会報告：

後藤委員長報告。SE講座・更新研修が無事に終了した。SE講座は受講者が多いが、更新研修は受講者が少なく現在の更新認定のしくみに工夫が必要。

専務理事より受講者数・内訳の報告。

(4) 日工会市場委員会との情報交換会

専務理事より報告。9/22に日工会との情報交換会を開催した。

日工会45名、日工販12名のメンバーが出席。講演会、市場環境(国内)に関するアンケート調査集計結果報告も併せて行なわれた。

講演会：「我が国航空機関連産業の市場動向」

講師：みずほ総研(株) 資料に基づき報告。

(5) JIMTOF2008日工販国際レセプション

富田委員長より報告。

11/1 12:00~13:30、東京ビッグサイト102会議室にて開催。参加者は62名で内訳は海外関連11団体14名、国内関連7団体18名、報道4名、事務局3名。

詳細については11・12月号JIMTOF2008特集参照。

(6) JIMTOFに関する情報交換

尾瀬会長：JIMTOF2008では14万2,488人(重複は16万9811人)と2006年の来場者数13万908人を超え盛況だったが、商売等どうであったか、JIMTOFについてのご意見を伺いたい。

A：直近の引き合いは殆どなく、顧客が大勢来たが機械を見に来たという感じで長期的な話にとどまった。

現実引き合いの数も減っているのか盛り上がりもなかった。

B：前半は引き合いの話を貰っているが、後半

- は勉強しに来たという顧客が多く期待していた通りの成果は得られなかった。
- C：事前に整理してリストにまとめ招待した顧客は、ほぼ間違いなく来られ、来場率は最高であった。
- D：時間延長は効果がないと感じる。
海外のお客が多かったが注文までにはいかなかった。
期間の短縮は良いが、1日(土)の集中があまりにも多かった。
- E：複数の会社について投資を抑えられている感じがした。
- F：小さなブースを出した。アメリカからの輸入品を展示したがエンドユーザーが来るというのではなく、前回との比較もあるがメーカーさんの引き合いが多かった。注文の内示はあり絶対数は前回よりも多い。
- G：2～3年後を考えてこられる方が多かった。
日程的に土日に来られなく前半の2日間に集中した。
メーカーの新製品の中で開発に関する格差が出てきた感じがした。
- G：引き合いみたいな感じはあったが、納期ははっきりしない。
予算はあるが勉強にきているという感じが実態。
- H：前は購入決定権を持った顧客が来たが、今回は勉強に来た若い方ばかりで引き合いも少ない。
- I：自動車関係の顧客は見本市見学どころではない状態。
予定した顧客は全て来ていただいた。売りたいと思っている機械は関心なく、安い機械に对象となっているのでメーカーも肩透かしの状況。
ただし工具のブースは盛況で群がるように勉強されていた。
- J：JIMTOFのタイミングは最悪。
- 大手顧客のキーマン訪問が会社側で制限された権限のない方が多く商売にならない。
- K：ブースへの来場者が少なく引き合いも少なかった。
円高により海外のメーカーが価格を下げてくるが国内は下げられず、これからジレンマが出てくると思われる。
- L：勉強に来られたという感じで社員ともども一諸に勉強している感じ。
幸いキャンセルまでは出ていないが先物で押さえている機械も手放してくれないかという話もある。
- M：中小の顧客が多いが元気がない。
若手を招待したが、前半の30、31日に集中し、来場者が多くてよく機械を見れなかったという意見を聞いている。
- N：JIMTOFのタイミングが悪かったが来場者が多かったのは悪いことではなかった。
- O：予定された顧客は全て来られた。
来ていただいたことは喜ぶべきだと思う。
引き合いもいつ決まるか分からないが、後は営業マンが対応するが顧客とお会いできた事は良かった。
- P：JIMTOFにはたくさんの方が来られたが、中期的に見れば回復してくるのでしばらくは丁寧な仕事をして勉強していくのが良いのではと感じている。
- 尾瀬会長：まとめますと、来場者は多かったが商売的な引き合いはあまりなく、顧客は前半多いが後半は少ない状況とのことでした。
本日は長い時間有難うございました。
- 次回定例理事会：
平成21年1月7日(水) 11:00～12:00
東京/八重洲富士屋ホテル

第102回 調査広報委員会

日 時：11月19日(水) 12:30~15:10

場 所：機械工具会館5階

出席者：田尻委員長、他委員5名、事務局3名

委員長挨拶：

JIMTOF座談会の折はご出席ありがとうございます。景気環境は今更いうまでもないと思いますが非常に厳しい環境にありますので大変であると感じています。販売会社としても企業リスクと将来に向けた拡販に非常に難しい状態にある。今はじっと耐えるときであり、環境の好転までどうするかまで戦略を持って動いていく必要がある。メーカーにも貢献できればと思う今日この頃であります。本日もいくつか主要テーマがありますので早速審議に入りますが効率的に議事を進めていただきたい。

専務理事より配布資料、パンフレットの校正案とHPの原案の説明があった。

議 事：

(1) 日工販ニュース編集について

事務局より11・12月合併号の編集について掲載する寄稿、記事内容について説明があり承認された。今回はJIMTOF特集号であり、国際委員会のレセプション、調査広報委員会主催の座談会、JIMTOF印象記を掲載する。展示には自動車関連の不振の為、重点を航空機、建機、風力発電機向の大型機、医療関連向の微細精密加工機を置き各社は工夫をして工作機械、ワーク等を展示されていた。6日間と期間も短縮されたが始めを早く、終りの時間を延長。来場者は前回は大幅に上回った。これを内容にして掲載する予定。

(2) 日工販PRパンフレット完成報告の件

事務局より前回の委員会で見直し修正した。

原稿を再度委員各位にメール送付して確認していただき、10月にHPに掲載した旨報告があった。

(3) JIMTOF座談会総括のこと

座談会報告を事前に出席者にメール送付して、見直し依頼した内容を全員で校正をする。

テーマは「出展者の主題はどこにあったのか。その展示のコンセプトは何だったのか。」として話し合った内容を表現の適切さ、展示内容等をチェックした。

尚、座談会内容は下記項目にまとめた。

始めに、熱変位への対応など精度をさらに追求、メーカー同士の共同出展も目立つ、自動車のほか航空機、医療、エネルギーの分野も重視、ブースのプレゼンテーションに数々の工夫も、新たな技術に挑戦する中小企業の熱意に応える必要、
終りに

以上、校正した座談会内容は日工販ニュース11・12月合併号のJIMTOF特集の記事として掲載することが了承された。

(4) 日工販HPの件

委員長より前回配布した製作会社より提示された原案を検討。表示の内容は変わらないが、表現を変更し、会員の利便性を図りたい旨説明があった。討議の中で、表示される写真はどうか決めているのか、情報内容をどこまで表示するのが必要か等の意見が出されたが結論にいたらず、次回引き続いて検討することにした。

次回開催予定：

平成21年2月10日(火) 12:30~15:00
機械工具会館5階

第95回 教育委員会

日時：11月13日(木) 12:30～15:00

場所：機械工具会館 5階会議室

出席者：後藤委員長、委員6名、事務局3名

委員長挨拶：

教育委員会も順調に推移しており、おかげさまで基礎講座・SE講座・更新研修とも無事終了いたしました。来年度教育事業への問題点・改良すべき点もあり討議し、SE教育をより良いものにして行きたいと思っておりますのでご審議宜しくお願いいたします。

議 事：

(1) 20年度SE講座・更新研修結果報告

専務理事より報告。受講者の内訳(正会員、賛助会員、会員外)をグラフにて説明。SE講座は昨年とほぼ同様の受講生が集まり3会場で実施した。

基礎講座

第1回目	5/22～5/24	62名
第2回目	6/12～6/14	62名
合 計		124名

SE集合講座

東京会場	SE	更新	合計
10/9～10/11	86名	8名	94名
名古屋会場			
10/16～10/18	63名	11名	74名
大阪会場			
10/23～10/25	62名	3名	65名
合 計	211名	22名	233名

更新研修

東京会場	11/6	31名
名古屋会場	11/11	28名
合 計		59名

永世SE手続き：申し込み数37名

(2) 21年度教育事業方針

基礎講座について

日本工業大学で予定しているが、「設備機械販売担当の心得と仕事」の中村講師が今年限りで退任。

引き続き後任講師を検討中。

SE講座カリキュラムについて

今年より新しく1日目の小樋講師の講座「最近の工作機械の展開と活用」が開講。

3日目の「金型と加工機械」講座については検討の結果、講座を終了し、希望の多い「CAD・CAM」の講座に変更とする方針となった。

更新研修のあり方について

更新研修は1日の必修専門講座に加えSE講座2日・SE講座1日プラス通信教育・通信教育2科目の3通りの組み合わせで実施しているが、ベテラン社員にとってSE講座の出席・通信教育の必要性は疑問である。

討議の結果、1日は従来の必修専門講座、2日目は講演など最新の情報内容とすることとし、金・土の2日間で実施する方向で検討することにした。

通信講座内容と改訂について

科目について検討の結果、スタート以来改訂していない「物流マテハンFMS、FA、CIM」は今後も必要とのことで全面改訂することにした。また「旋盤」に複合機を加え、「マシニングセンタ」に5軸を加え改訂することが了承された。

次回開催：

平成21年3月上旬

製品研修会開催

10月初旬日工販西部・東部・中部地区において製品研修会が開催されました。

西部地区赤澤委員長、東部地区柴田委員長、中部地区高田委員長より開講挨拶があり、各地区下記スケジュール・テーマによりメーカー各社の特長、近年のテーマであるECO対応も含め、最先端の製品について動画等も駆使されてご説明をいただきました。今回はJIMTOF開催直前ということもあり多数のご参加をいただき、ご講師の方々の熱意あるご説明に参加者一同熱心に聴講しておりました。時期的に大変ご多忙の中ご協力いただきましたメーカー各位には心よりお礼申し上げます。

西部地区

日 時：10月1日(水)

場 所：エル・おおさか5階 視聴覚室

参加者：正会員67名、リース賛助会員10名 総計77名

テーマ：「JIMTOF出展の新製品」

No.	時 間	会 社 名	説明機種名、モデル名	説 明 者
	09:45	開講挨拶		
1	09:50～ 10:40	㈱岡本工作機械製作所	コラム形平面研削盤 PSG66CA1 超精密成形研削盤 UPZ210Li, UPX310Li 高能率平面研削盤 PSG64Li ほか	大阪営業所所長 武 貞 明 宏
2	10:50～ 11:40	大阪機工(株)	出品予定機	営業統括室室長 松 廣 正 樹
	11:40～ 12:50	昼 食		
3	12:50～ 13:40	㈱ソディック	放電加工機、 ワイヤーカット放電加工機新機種	営業統括部部长 澤 崎 隆
4	13:50～ 14:40	オークマ(株)	サーモフレンドリーコンセプト搭載機種門形 マシニングセンタ、大型複合加工機、 立形複合旋盤	ソリューション開発センター ソリューション1課 課長 安 井 義 輝
5	14:55～ 15:45	㈱牧野フライス製作所	5軸制御立形マシニングセンタ D500 ワイヤ放電加工機DOUシリーズ	加工研修センタカスタマG 大阪CSチームリーダー 古 賀 政 幸
6	15:55～ 16:45	三菱電機(株)	出品予定機	産業メカトロニクス事業部 主管技師長 菱井正夫 主席技師長 岩崎健史
	16:45～	閉講挨拶		

(注) 各講座とも持ち時間は50分、ご説明45分、質疑応答5分。

東部地区

日 時：10月7日(火)

場 所：仏教伝道センター7階「見」

参加者：正会員33名、リース賛助会員13名 総計46名

テーマ：「JIMTOF出展機」

No.	時間	会社名	説明機種名、モデル名	説明者
	09:25	開講挨拶		
1	09:30～10:30	(株)牧野フライス製作所	立形マシニングセンタV56i Fb127 横形マシニングセンタ a51-4XO など	営業本部 東部第一ブロック長 兀下 浩
2	10:40～11:40	(株)森精機製作所	5軸制御立形マシニングセンタ NMV8000DCG 複合加工機 NT6600DCG	管理本部マーケティング戦略室 マーケティング戦略課マネージャー 大和 邦治
	11:40～12:25	昼食		
3	12:25～13:25	ヤマザキマザック(株)	JIMTOF出展機	販売企画課課長代行 岩田 正晴
4	13:35～14:35	大阪機工(株)	JIMTOF出展機	技術本部 技術開発マネージャー 大西 賢治
5	14:45～15:45	オークマ(株)	大型複合加工機、 立形複合旋盤	技術本部 営業技術部次長 脇田 英二
	15:45～	閉講挨拶		

(注) 各講座とも持ち時間は60分、ご説明55分、質疑応答5分。

中部地区

日時：10月8日(水)

場所：名古屋ダイヤビルディング2号館7階 272会議室

参加者：正会員63名、リース賛助会員16名 総計79名

テーマ：「5軸加工機の最新動向について」

No.	時間	会社名	説明機種名、モデル名	説明者
	08:50	開講挨拶		
1	09:00～09:50	新日本工機(株)	各種5軸機	第一技術部部长 田中和也
2	10:00～10:50	(株)松浦機械製作所	5軸制御立形MC MAM72シリーズ 5軸複合MC CUBLEXシリーズ	テクニカルサポートセンター 課長代理 慈道 圭司
3	11:00～11:50	(株)牧野フライス製作所	横形マシニングセンタ MCC-VG 5軸複合MC D500	加工研修センタカスタムグループ 名古屋CSチーム 岩田 正晴
	11:50～12:40	昼食		
4	12:40～13:30	(株)森精機製作所	5軸制御高精度立形MC MMVシリーズ 高精度・高効率複合加工機 NTシリーズ	NTL部 NTテスト加工課GM 飯塚 益裕
5	13:40～14:30	安田工業(株)	CNC JIGBRER YBM Vi40 PRECISION CENTER H40i	名古屋営業所 所長代理 高橋 章
6	14:40～15:30	日本ディエムジー(株)	5軸加工入門モデル DMU50シリーズ 高生産性5軸加工機 duoBLOCKシリーズ	営業技術プロダクトマネージャー ・ミーリングテクノロジー 細田 陽一郎
7	15:40～16:49	オークマ(株)	大型複合加工機、 立形複合旋盤	ソリューション開発センター ソリューション1課 課長 安井 義輝

(注) 各講座とも持ち時間は50分、ご説明45分、質疑応答5分。

東部地区懇親ゴルフ会

日 時：11月11日(火)

場 所：東京よみうりカントリークラブ

参加者：正会員10名、メーカー2名、リース4名、計16名

晩秋の本来ならば絶好の季節であるのですが少々肌寒いあいにくの天候でしたが、JIMTOFも終りほっとしたひと時、名門コースで皆さん元気いっぱいプレーを楽しんでおられました。

競技終了後の懇親会では各社の近況報告並びにJIMTOFレビューを行い有意義な一日となりました。尚、上位成績者は以下の通りです。

RANK	氏 名	会 社 名	OUT	IN	GROSS	HCP	NET
優 勝	坂田育文	㈱兼松K G K	41	46	87	16.8	70.2
準優勝	渡辺幸夫	㈱兼松K G K	50	45	95	21.6	73.4
3 位	安栄香純	日立キャピタル㈱	43	47	90	15.6	74.4

西部地区懇親ゴルフ会

日 時：11月18日(火)

場 所：グリーンエースカントリークラブ

参加者：正会員9名、メーカー4名、リース2名 総計15名

JIMTOFも終り一段落の後、晩秋の快晴の中、日頃多忙な仕事を離れて元気いっぱいプレーを楽しまれていました。競技後懇親会を開催し各社の情報交換行ない、定刻になり散会しました。

ルールはダブルペリア方式とし、上位入賞者は下記の通りです。

RANK	氏 名	会 社 名	OUT	IN	GROSS	HCP	NET
優 勝	狩生宗毅	オーエスジ-㈱	45	42	87	16.8	70.2
準優勝	宮脇隆一郎	宮脇機械プラント㈱	48	42	90	16.8	73.2
3 位	垣尾 勉	西川産業㈱	65	51	105	31.2	73.8

お知らせ

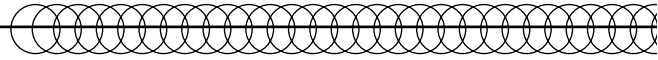
日工販紹介パンフレットが完成しました。

日工販ホームページ「会員専用ページ」に日工販紹介パンフレットを掲載致しました。

必要な時にプリントアウトして下さい。PDFファイルA4とA3を用意しました。

A3の場合はA3用紙2枚の裏表印刷でパンフレットが出来るように工夫されています。

ご活用下さいますようお願い申し上げます。



SE講座集合教育・更新研修実施報告

平成20年度SE講座集合教育は、昨年と同様下記3ヵ所で3日間の集合教育が実施されました。

東京：10月9日(木)～11日(土)

名古屋：10月16日(木)～18日(土)

大阪：10月23日(木)～25日(土)

受講者は東京94名(更新研修8名含む)、名古屋74名(更新研修11名含む)、大阪65名(更新研修3名含む)の総計233名(更新研修22名含む)で営業力への実践知識認識がされ昨年同様多くの人数となりました。今年も昨年同様3会場とし受講生には好評であったようです。

カリキュラムも時代に合ったものとして見直しを行っており一部変更を行いました。第1日1時限目「工作機械産業の動向」をご担当された渡辺講師がご退任されたので、オークマ(株)の小樋秋夫氏にお願いし、新たな講座「最近の工作機械の展開と活用」とし、第2日の講座「NCの動向」を終了して、新たに講座「研削盤の用途と研削加工の動向」を開設し、講師を(株)岡本工作機械製作所の伊藤暁氏にお願いしました。全容は下記の通りです。

集合教育カリキュラム

第1日	第2日	第3日
(開講のあいさつ)	切削機械の動向	販売実務・法律知識
最近の工作機械の展開と活用	研削盤の用途と研削加工の動向	金型と加工機械
図面・加工法・切削理論	テスト・アンケート	塑性加工の動向と
テスト・アンケート	生産システムと情報技術	最近のプレス機械
品質・規格・測定	ロボット技術	テスト・アンケート
問題解決法と提案営業	特殊加工	
テスト・アンケート	放電・レーザー・電子ビーム	
	テスト・アンケート	

今回の集合教育を受講された方々は11月より始まった通信教育の履修を全うされて日工販SE資格を全員が取得されるよう期待します。

更新研修必修専門講座は東京11月6日(木)、名古屋11月11日(火)の日程で開催され、昨年より多い東京31名、名古屋28名の総計59名の方が受講されました。本年度の講座は一部内容を変更し、より多くの現状に即した情報を取り入れた講義内容とし、講座「工作機械の商品開発・売れ筋動向及び急拡大する中国の工作機械市場」に替わりSE講座で特殊加工を担当されていた上野講師に講座「最先端ものづくりと連携戦略」をお願いし、また仁木講師の講座「生産技術の現状と将来の観点」を内容変更し、講座「自動車を取り巻く現状と工作機械販売への期待」を講義していただきました。

必修専門講座カリキュラム

開講挨拶・オリエンテーション

最先端のものづくりと連携戦略

投資効果についての考え方

ものづくりと精密加工の原点

自動車を取り巻く現状と工作機械販売への期待

テスト・アンケート

講師の方々をはじめ、ご協力をいただきました関係各位には厚くお礼申し上げます。

日工販SE合格者 第158回発表

更新研修合格者 第106回発表

今回は10・11月の合格者23名です。

今回は10・11月の合格者20名です。

認定No.	会社名	合格者名
08-16-2162	(株)ジーネット	田中 盛康
08-17-2163	三井物産マシンテック(株)	伊代田真祥
08-17-2164	三栄商事(株)	山森 聖悟
08-17-2165	三栄商事(株)	嶋本 和平
08-17-2166	サンコー商事(株)	大山 貴司
08-17-2167	サンコー商事(株)	五島 達也
08-17-2168	(株)東 陽	杉本 祥彦
08-17-2169	山下機械(株)	田村 淳
08-17-2170	山下機械(株)	藤原 俊太
08-17-2171	(株)森精機製作所	菱田 一郎
08-17-2172	(株)北川鉄工所	山岡 章一
08-17-2173	東芝ファイナンス(株)	小関 雅仁
08-17-2174	近畿総合リース(株)	中尾 和瑛
08-17-2175	マーボス(株)	河野康二郎
08-17-2176	(株)兼松K G K	楠 直之
08-17-2177	三井物産マシンテック(株)	吉原 伸治
08-17-2178	三菱商事テクノス(株)	竹重 大樹
08-17-2179	三菱商事テクノス(株)	小澤慎太郎
08-17-2180	岡谷機販(株)	横山 功一
08-17-2181	山下機械(株)	森野 主崇
08-17-2182	(株)シギヤ精機製作所	河重 昭和
08-17-2183	興銀リース(株)	鈴木 辰弥
08-17-2184	三菱UFJリース(株)	香山 陽佑

認定No.	会社名	合格者名
08-12R-1502	住信リース(株)	土手 鴻雅
08-12R-1589	住信リース(株)	綿貫 康典
08-12R-1569	(株)東 陽	杉山 典弘
08-12R-1532	NECリース(株)	澄川 裕己
08-12R-1575	住信リース(株)	石野 隆幸
08-13R-1604	三菱商事テクノス(株)	相原 隆文
08-13R-1248	(株)東 陽	伊藤 禎朗
08-13R-1426	(株)東 陽	長谷部 勇
08-13R-1645	(株)東 陽	山田 隆司
08-13R-1665	(株)東 陽	山田 英幹
08-13R-1608	山下機械(株)	祖父江 正
08-13R-1580	(株)ジーネット	中畑 耕一
08-13R-1595	(株)ジーネット	吉澤 秀晃
08-13R-1596	(株)ジーネット	荒瀬 裕司
08-13R-1637	メルダシステムエンジニアリング(株)	菅野 史夫
08-13R-1653	メルダシステムエンジニアリング(株)	橋本 進
08-13R-1478	豊田通商(株)	梨本 貴裕
08-13R-1656	(株)森 野	山口 善史
08-13R-1685	(株)森 野	高田 祐介
08-13R-1543	(株)ユーマシン	田中 勝彦

工作機械業界の永久なる発展を祈って...



三井物産マシンテック(株)
取締役社長
小川 慎一

2003年11月に、前身の三井物産マシナリーから工作機械の商標を継承し(株)MMKを設立、本年4月に社名を三井物産マシンテック(株)に変更、丸5年が経過しようとしています。

昨年来原油価格や各種資材価格が異常なほど高騰し、物作り環境への影響が懸念されておりましたが、これに加えて国際的な金融危機が予想外の広がりを見せ、改めて経済・金融のグローバル化の怖さを思い知らされたというのが実感です。

社長就任以来右肩上がりの受注環境の中、社員の奮闘もあって、会社の業績は順調に推移して参りましたが、ここに来て一気に経済環境が変化し、自動車や金型に代表される日本の製造業への不安が取り沙汰される昨今ですが、このような環境変化の中における工作機械業界の在り姿について思いを巡らして見ました。任期も残り少なくなった現在、5年間お世話になった工作機械業界の永久なる発展を祈って。

1. 日本の戦略的商品としての位置づけ：

資源小国の我が国にとって、物作りを支える工作機械は重要な国際戦略商品足り得ると思います。世界シェア30%を有す商品は他には余り例を見なく、新規参入はまずあり得ない。

世界規模での物作りは更に成長を遂げるであろうし、日本の相対的優位性は揺ぎ無いと思います。

但し中国が国策として今後更に工作機械の発展に注力する事は確実である事から、日本は規格大量生産からより付加価値の高い商品の開発と生産、これらに必要な工作機械の開発を目指すべきでしょう。下記2～5の実現を前提とすれば日本の工作機械業界の安定的な発展の可能性は大とされます。

2. 業界再編成の必然性：

上記のごとく国家戦略商品であるにも拘らず、なぜ工作機械製造に従事する会社の株価が低いのか？経営者の高齢化、同族経営、過当競争、低収益力等々要因が考えられますが、今後市場が益々グローバルになる事を考え併せると、企業としての体力の強化が一番。

次に人材の確保と工場の生産性の向上が必須で、その為には市場を寡占化するための水平統合を勇気を持って推進する必要ありと思います。

既に殆どの業界では生き残りの為の統合、合併、協業が行われていますが、工作機械業界ではその頻度とスピードが不十分ではないかと思えます。株価を上げなければ、中国等外国からの買収の対象にな

りやすく、日本の物作り戦略に欠かせない工作機械の技術の海外流出は何としても防がなければなりません。

3．海外市場開拓：

工作機械の内外需の比率が逆転するのは必然ですが、現に起こっている事は筆者の予測を上回るスピードで現実化しました。

1970年代では欧米、日本が物作りの主役でこれらの国の総人口が約6億人で当時の世界人口40億人の15%に過ぎない状況でしたが、今日ではこれらに中国、インド、アセアン諸国等が加わり物作り人口は約20億人で、これは現在の世界人口60億人の30%以上に該当します。

上記新興国の今後の経済成長を考えると、物作りのグローバル化は更に進行することに疑いはなく、これらの市場をどのように取り込むかによって、工作機械業界の将来が決まるといっても過言ではないと思います。

海外市場開拓の要諦は、Timing、人材、Partner(商社、代理店) そしてサービス機能の充実です。当然先行投資型となるため、最後までやり抜く体力が必要な事言うまでもありません。

4．技術開発、継承と人材の問題：

人材確保はおそらく多くの工作機械メーカーの共通の課題だと思います。

人材の確保、育成には時間とコストが掛かり、長期的に取り組むべき課題です。最近一部のメーカーでテレビのコマーシャルでの露出が見られますが、IR活動は地道に継続すべきでしょう。大学、研究機関とのTie-up、海外人材の獲得、活用、社内人材への待遇改善、中堅幹部(特に海外人材)の養成は他社・他業界への流出を防ぐためにきわめて重要です。短期的には統合・合併による人材の確保も有効な手段だと思います。

ビジネスのグローバル化は人材のグローバル化が前提ですので、この点での具体的な戦略が急務だと思います。

5．資源と環境問題：

最後に、今後更に重要となる課題が資源と環境問題です。

物作りのグローバル化は必然的に資源競争を招きます。従って資材や基幹部品の安定調達の仕組みを講じる事が求められる時代となったと言えます。更に環境問題では工作機械のオペレーターへの環境対策、省エネ技術、リサイクルにも配慮と工夫が必要になると思います。要するに世界をリードする企業集団としての品格が求められる訳で、横並びではなく、個性的な企業体に脱皮する事が企業の価値を増幅する事につながると思います。

これらの課題を一企業の努力で克服することは困難です。

技術開発力、生産力、営業力、海外展開力、資金力等を総合的に検証して、中長期戦略を確立する事がメーカー各社に求められ、一方で販売店も仲介者的存在から事業のパートナー的存在に衣替えする必要があると思います。製販一体となった工作機械業界の発展を祈って止みません。

工作機械と私



榎山 善
東日本営業本部
機械部 首都圏課
倉 又 陵 平

私は今年で入社4年目となります。業界歴わずか3年半ですが、その中から経験談を述べさせていただきます。

私にとっての『工作機械』を一言で言うならば、『相棒』だ。大学時代には聞かなかった『工作機械』は、今や常に頭の片隅にはある存在になった。今では新聞・テレビでのニュースは、常に業界に関連付ける癖がついてしまった。日常生活で使用するあらゆる製品も、どのようにして出来たのかが気になるようになってしまった。軽い職業病とも言えるかも知れない。しかし、そんな相棒との生活を実は少し楽しんでいる自分がある。

『工作機械』との初めての出会いは、新入社員研修時のメーカー工場見学の時だ。とてもきれいとは言えない工場環境下の中で動いている機械をみて、このような業界は嫌だなと直感したことを覚えている。研修の最後には希望配属先の部署を3つ提出できるのだが、機械部には出さなかった。だが、蓋を開けて見れば、約60分の4の確立的中。全国で4人しか配属されない機械部へ配属された。

『工作機械』で一番面白いと感じたのは、機械部の研修時にプラ型の存在を知った時だ。自分が生まれたときから大変お世話になってきたプラスチック製品は、実は工作機械が型を削り、射出成形機によって製品化されていたのだなと分かったからだ。初めて分かったときは、感動というより「やられたっ！」という感覚の方が正しいと思う。なんとなく配属された機械部であったが、いい意味でとんでもない部署へ配属されたなと本当にワクワクした。

いつも聞かれると嬉しい反面困る質問がある。

「倉又ってどんな仕事しているの？」

私は毎回近くにあるプラスチック製品を取り出して、うんちくを語る。当然ながらすぐには分かってくれない。

この業界は、百聞は一見にしかずという部分が大きいと思う。見てみて初めてなるほどという感覚になる。他の人にはなかなか知られていない工作機械業界であるが、実は皆の生活からは切っても切れない存在である。そんな業界の仕事に携われていることを誇りに思う。

『相棒』との付き合いはかれこれ3年半になるが、相棒の機嫌が悪いと私の調子も狂わされる。逆に相棒の機嫌がいいと私もどこか調子が良くなってくる。

現在、工作機械業界だけに留まらず経済界全体が行き先の見えない道に突然迷い込んでしまったようだ。しかし、先行きが見えないということは、決して先が暗いというわけではなくて、先がまた明るくなっているかもしれない。そんな希望と業界に携わっているという誇りを胸に今後も少しでも貢献できる様邁進し続けていきたい。

この『相棒』との旅はまだまだ始まったばかりであるが、最高の旅となるよう一日一日を大切に過ごして行きたい。



リレー随筆



エヌティーツール(株)
総務チーム
杉浦 正典

ご存じない方も多いと思いますが、最近の10代～20代の若い女性を中心に、話題として戦国武将ブームが起きているようです。何でも戦国時代を舞台にしたゲームソフトがその火付け役とのことで、先日もTVニュースの特集コーナーで取り上げられていました。私も以前より歴史関連は好きな方で、その中でも戦国時代は特に興味の強いところです。「一番好きな戦国武将は？」と聞かれれば、自分の生まれ育ったところが愛知県の三河ということも有り、やはり徳川家康と答えます。身近な所に松平家・徳川家にゆかりの深い名所旧跡がたくさんありますのでどうしても愛着がわきます。

しかし、今家康よりも興味をもっている武将が一人います。長尾景虎(ながおかげとら)です。ピンとこない方が多いかもしれませんが後の上杉謙信のことです。景虎の名は、彼が元服した14歳から32歳までの18年間で最も長く使い、彼の生涯は専ら景虎と呼ばれていたようです。謙信の名は42歳から病で没する49歳までの8年間のみでした。

ところで、上杉謙信と言えば皆さんは、どんな印象をお持ちでしょうか？ 一般的には、「宿敵武田信玄との川中島での一騎打ちのシーン」と答えられる方が多いと思います。私もまさにそのひとりでしたが、最近彼に関する小説等を読んで知り得た、上杉謙信のエピソードを少しご紹介したいと思います。まず彼は生涯独身を通しています。これには諸説あるようですが、そのひとつは若き景虎と敵將の娘との恋を政治的理由で破局させられたにもかかわらず、その娘への愛を貫いたという説と、自ら篤く信仰する「毘沙門天」の化身となるため女性を近づけなかったという説があります。いずれにせよ一度も妻を娶らなかったということです。他には、戦場を離れた謙信は、風流を愛でる武人としても有名で、和歌に親しみ筆も達筆だったとのことです。お酒は酒豪と言われるほどの量を飲んでいたようですが、酒に呑まれることはなく、質素なものを肴に一人で優雅に飲んでいたようです。しかし、戦国武将謙信を語る上で戦場における強さに触れないわけにはいけないですね。

ある越後史研究家の調べによると謙信の生涯戦績は70戦43勝2敗25分だそうです。負け率率は95%以上になります。しかし彼は決して戦好きであった訳ではなく、彼の戦の特徴は「利」の為ではなく、「義」の為にだけ戦をしたということです。「私利私欲」の為に絶対兵を挙げず、越後領内に攻めて来る敵が居たり、自分に窮状を訴え頼って来るものがいれば、止むを得ず兵を挙げたのです。それが一旦戦になるとやたらに強かった！謙信の繰り出す戦術に加え、謙信自身を「武神・毘沙門天の化身」と信じ、負けるわけがないという軍団の結束力が戦国最強と畏れられたようです。あの織田信長ですら当初この恐ろしく強い謙信の敵にならないように必死に贈り物をするなど、その気配りは相当なものだったようです。信長にとって謙信の「義」の為にのみ戦うという世界観と精神性の高さは理解しがたいものに違いなかったと思います。

話は些か飛躍するようですが、地球温暖化に代表される環境破壊は、現代の人間社会が自らの豊かさのみを追求し、周りの無抵抗な自然環境を攻めつづけた結果ではないでしょうか。地球上の人間以外の生物や植物からみれば人間の「私利私欲」による自然破壊はもううんざりのはずで、戦国時代の話をしてきましたので、このような表現になってしまいましたが、世の中が平和になったにも拘らず、それに満足せず自然環境を自分達の支配下に置こうとする人間社会に対し、謙信ならきっと怒りの鉄拳を振り下ろすことでしょう。私自身無意識のうちにしてしまっている環境破壊を反省し、謙信が後世に残そうとした「義」の精神に、現代の「義」で答えていければと思っています。

統

計

資

料

工作機械・F A 流通動態調査 1

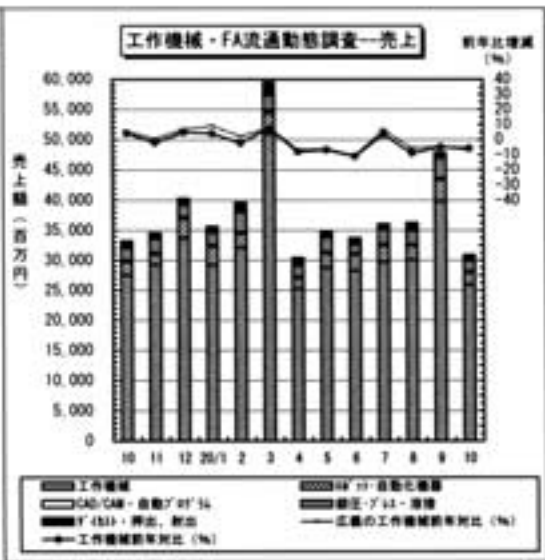
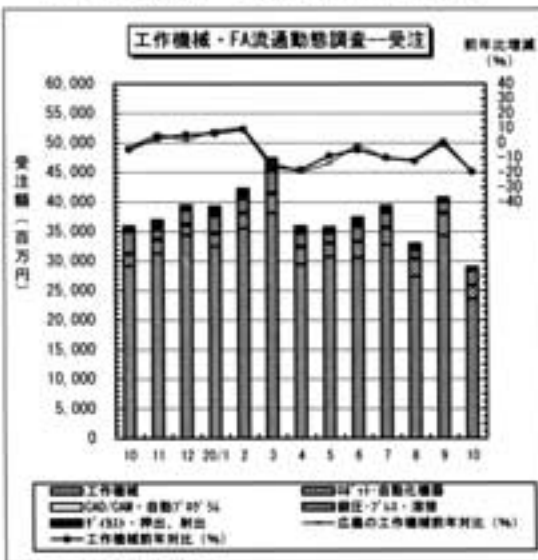
統計1

		受 注					売 上				
39社合計		20/10	前月比	前年比	20/1-20/10	前年比	20/10	前月比	前年比	20/1-20/10	前年比
調査月次											
広義の工作機械	工作機械	23,533	-31.5%	-19.4%	315,260	-7.8%	25,939	-34.9%	-5.6%	320,007	-2.8%
	ロボット・自動化機器	2,226	-39.2%	17.7%	26,718	7.7%	1,985	-43.5%	-11.7%	26,433	9.0%
	CAD/CAM・自動プログラム	177	-40.2%	-31.8%	2,545	-67.7%	241	-21.0%	-5.9%	2,570	-59.7%
	鍛圧・プレス・溶接	2,399	45.9%	-33.3%	22,094	-7.8%	1,743	-48.1%	-17.6%	23,523	23.4%
	ダイカスト・押出・射出	680	-18.4%	-33.2%	13,791	15.8%	969	12.5%	-15.0%	12,190	22.9%
	小計	29,015	-28.9%	-19.3%	360,408	-7.3%	30,877	-35.5%	-7.1%	384,363	-1.2%
工作機械以外の狭い商品	11,048	-35.7%	-24.1%	138,607	-3.0%	13,180	-17.0%	-4.9%	136,796	3.1%	
合計	40,069	-30.9%	-20.7%	519,025	-6.2%	44,259	-30.6%	-6.0%	521,892	0.1%	
従業員数	1,320	-0.4%	6.4%								

統計2

		受 注					売 上				
30社合計		20/10	前月比	前年比	20/1-20/10	前年比	20/10	前月比	前年比	20/1-20/10	前年比
調査月次											
内訳	直販 (内リース)	17,572	-26.3%	-17.4%	232,273	0.5%	18,489	-24.1%	-2.1%	225,979	6.6%
	卸	1,217	4.8%	-35.9%	15,964	-25.2%	1,672	-10.5%	-28.7%	18,191	-32.2%
	輸入	5,999	-31.4%	-36.2%	87,198	-13.6%	7,059	-38.0%	-10.0%	95,176	-12.4%
	輸出	262	-83.4%	-14.4%	5,976	-10.4%	143	-81.4%	-79.0%	5,276	2.5%
	(内間接輸出)	3,192	-37.6%	-43.9%	52,945	-11.4%	4,522	-34.5%	-17.5%	55,049	10.6%
		422	-17.6%		6,708	21.4%	420	-54.2%		9,485	49.8%
従業員数	937	0.0%	3.1%								

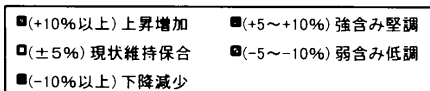
注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員72社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



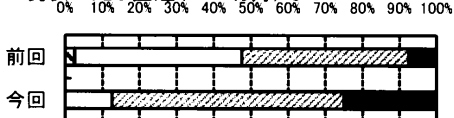
工作機械・F A 流通動態調査 2

今回平成20年10月調査/前回平成20年7月調査対比

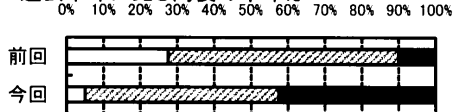
1. 工作機械全体見通し



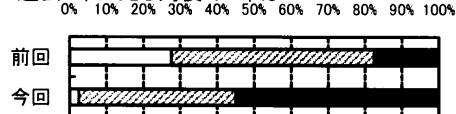
現状に比し直近(1~3ヵ月)は



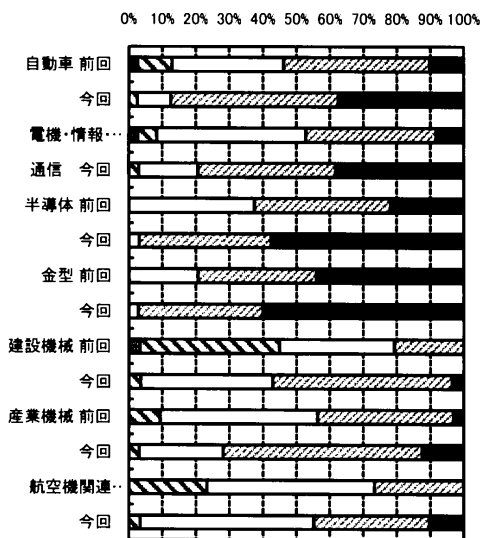
過去半年に比し向後の半年は



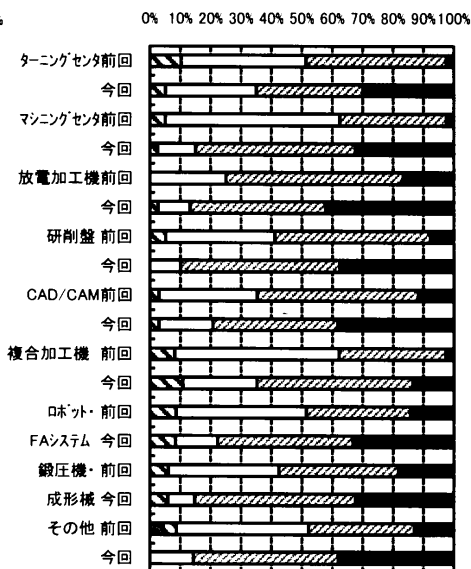
過去1年に比し向後の1年は



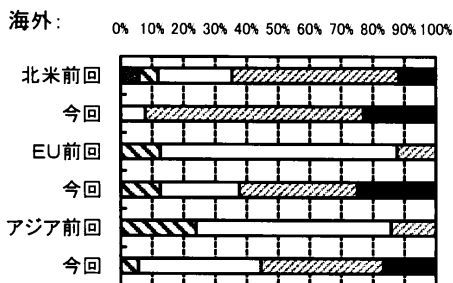
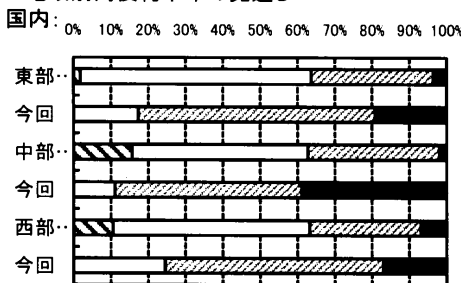
2. 市場別向後約半年の見通し



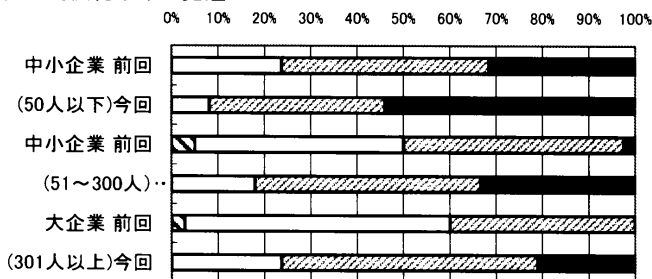
3. 製品別向後約半年の見通し



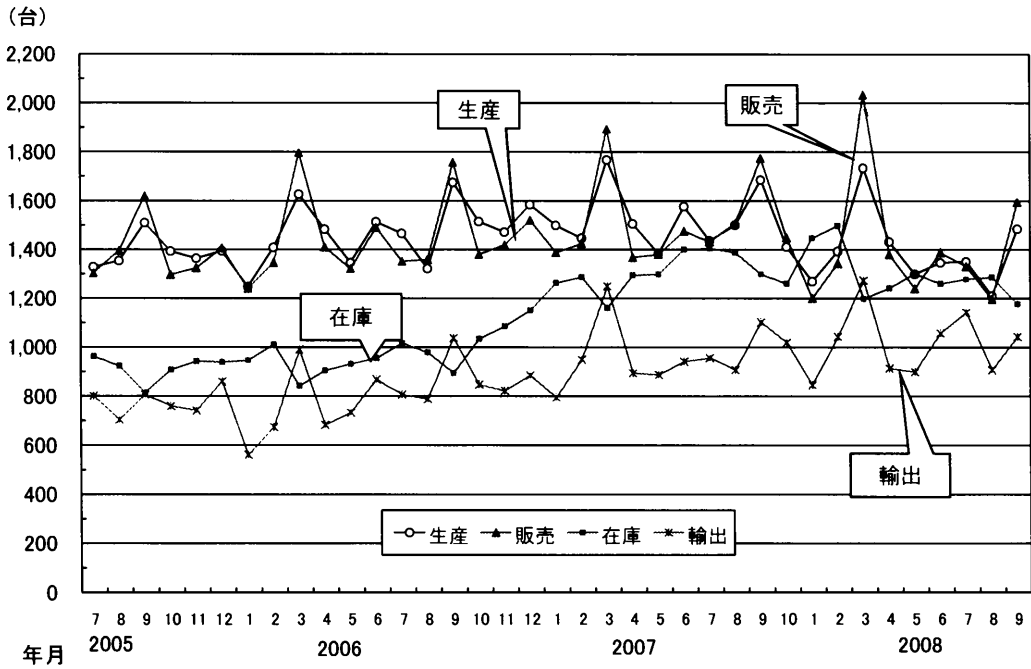
4. 地域別向後約半年の見通し



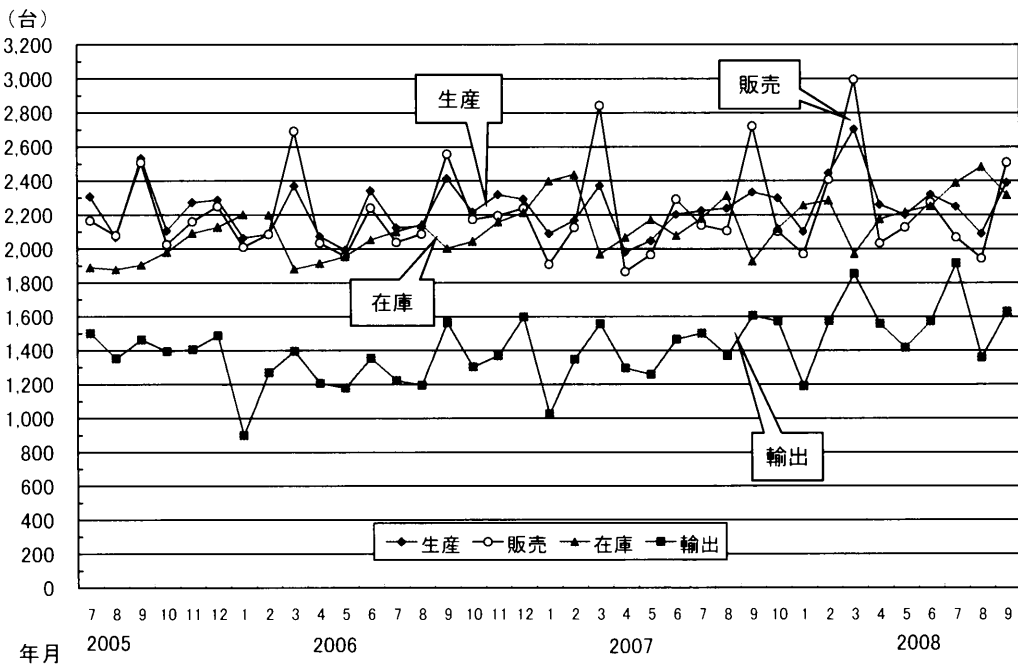
5. ユーザー規模別向後約半年の見通し



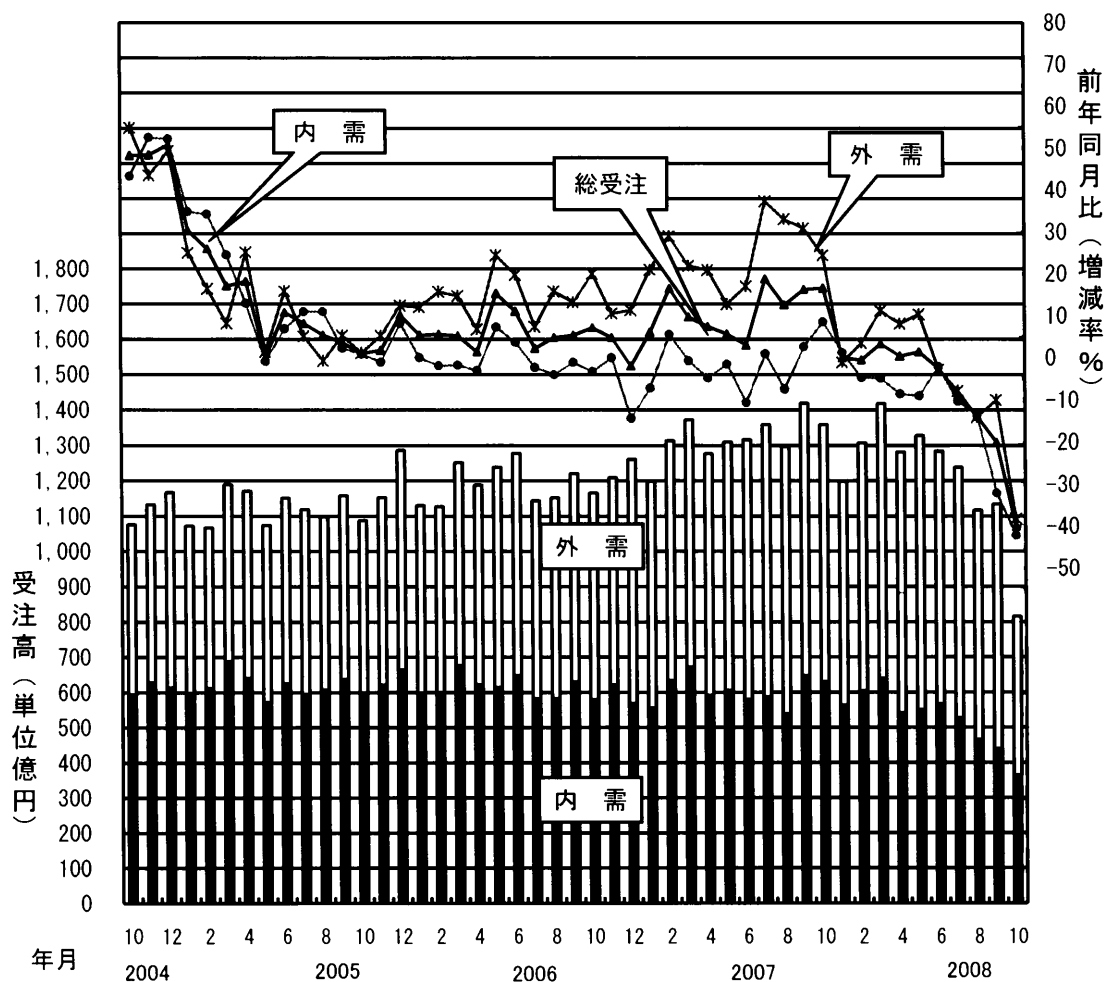
マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



工作機械受注高月別推移



コメント：工作機械受注高月別推移(四半期ベースで比較)

第3四半期は内需は急激に落ち込み400億円台/月となる。外需も600億円台/月となる。前年比では内需は19.3%減、外需は10.6%減と内外需とも減少し、総額では14.4%減となる。

また前四半期比は内需13.7%減、外需7.9%減、総額10.4%の減少となり、世界的な景気下降が伺われる。次の四半期がどう推移するかによりはっきりしてくる。

コメント：マシニングセンタ、NC旋盤動向(四半期ベース)

前四半期でみると生産はそれぞれ11.5%減、1.0%減といずれも減少した。販売もそれぞれ12.5%減、6.4%減となった。特にマシニングセンタの減少が激しい。輸出はそれぞれ4.3%減、2.3%増となり増加傾向で推移している。

前四半期では生産はそれぞれ10.8%減、0.8%減とほぼ横ばいであった。販売はそれぞれ1.1%増、1.3%増と上期決算時でもあり多少の増加であった。輸出はそれぞれ7.7%増、1.0%減となりまだまだよい流れにある。

工作機械業種別受注額(2008年10月)

11月13日発表 (単位: 百万円、%)

業種	2007年 累計	前年比	2008年 4~6月 累計	2008年 7~9月 累計	前年比	前年 同月比	2008年 1~9月累計	前年 同月比	10月分	前月比	前年 同月比	
1. 鉄鋼・非鉄金属	12,664	97.4	2,878	4,381	152.2	133.4	11,507	109.2	861	134.0	64.4	
2. 金属製品	21,582	102.6	6,195	4,158	67.1	83.0	17,664	99.7	1,692	130.7	86.0	
機械製造業	3. 一般機械	319,284	96.7	75,378	61,968	82.2	79.0	230,814	86.0	16,263	97.2	62.2
	(内金型)	56,975	85.5	11,909	9,673	81.2	79.9	35,858	75.4	2,301	66.9	60.1
	4. 自動車	213,125	109.0	49,352	43,766	82.6	72.7	154,065	85.7	8,544	68.6	41.2
	(内自動車部品)	92,180	103.4	27,633	19,566	70.8	76.7	78,607	102.6	4,277	70.3	48.5
	5. 電気機械	45,355	88.6	8,001	8,588	107.3	94.4	29,531	79.2	2,639	73.7	72.2
	6. 精密機械	31,571	85.8	7,739	6,215	80.3	82.5	23,239	90.2	1,060	47.7	28.9
	5~6. 電気・精密計	77,926	87.4	15,740	14,803	94.0	89.0	52,770	83.7	3,699	63.8	50.5
7. 印刷機・造紙・運送用機械	29,796	110.1	7,982	8,668	108.6	144.1	27,374	111.5	2,116	56.5	121.2	
3~7. 小計	640,131	99.7	148,452	126,205	85.0	80.3	465,023	87.1	30,722	79.0	54.7	
8. その他製造業	34,794	92.2	4,858	4,514	92.9	61.5	19,259	68.5	1,999	121.7	86.6	
9. 飲食業・学校	2,072	98.7	259	259	340.5	145.5	1,627	116.0	243	56.9	89.3	
10. その他製造部門	8,164	97.6	2,048	1,998	97.6	95.1	6,916	98.3	718	88.3	106.7	
11. 商社・代理店	7,017	78.2	1,365	1,141	84.2	61.0	4,444	74.4	245	63.1	68.2	
1~11. 内業合計	726,424	99.1	166,045	143,279	86.3	80.8	526,440	87.1	36,470	82.9	57.9	
12. 外業	863,567	122.7	223,382	205,840	92.1	89.4	686,130	95.5	45,056	64.8	61.8	
1~12. 受注累計	1,589,991	110.6	389,427	349,119	89.6	85.6	1,212,570	91.7	81,526	71.8	60.0	
(内N.C.機)	1,529,644	111.3	374,507	339,075	90.5	86.2	1,170,227	92.0	78,600	71.1	60.5	
商 売 額	1,522,632	108.2	347,331	402,495	115.9	98.1	1,276,268	101.3	102,155	63.0	94.1	
(内N.C.機)	1,467,631	108.8	335,562	388,953	115.9	98.1	1,231,428	101.4	98,844	63.1	94.6	
受 注 残 高	758,815	110.9	766,391	708,222	92.4	97.8	681,452	90.2	681,452	96.2	90.2	
(内N.C.機)	721,952	111.1	728,796	676,930	92.9	98.0	651,036	90.5	651,036	96.2	90.5	

出所: 10月日本工作機械工業協会

お知らせ

セーフティネット緊急保証制度のお知らせ

10月31日からスタートした緊急保証制度にこのほど「5313金属加工機械卸売業」も指定業種に追加されました。

1. 追加指定業種は、12月10日から本保証制度の対象となります。
2. 対象業種の中小・小規模業者は、金融機関から融資を受ける際に一般保証とは別枠で、無担保保証で最大8,000万円、普通保証で最大2億円まで信用保証協会の100%保障を受けることが出来ます。

* 経済産業局お問い合わせ先: 北海道経済産業局 産業部中小企業課 011-709-1783(直)

東北経済産業局 産業部中小企業課 022-222-2425(直)

関東経済産業局 産業部中小企業課 048-600-0425(直)

中部経済産業局 産業部中小企業課 052-951-2748(直)

近畿経済産業局 産業部中小企業課 06-6966-6023(直)

中国経済産業局 産業部中小企業課 082-224-5661(直)

四国経済産業局 産業部中小企業課 087-811-8529(直)

九州経済産業局 産業部中小企業課 092-482-5447(直)

沖縄総合事務局 経済産業部中小企業課 098-866-1755(直)

この他にもセーフティネット貸付などの各融資制度がありますので、下記金融機関のHPもご覧ください。

㈱日本政策金融公庫	http://www.jfc.go.jp/
㈱商工組合中央金庫	http://www.shokochukin.co.jp/
沖縄振興開発金融公庫	http://www.okinawakougo.go.jp/

会員・業界消息

代表者変更 メーカー賛助会員 (株)パトライト 取締役社長 澤村文雄
窓口変更 中部地区正会員 浜松貿易(株) 総務部長 赤佐洋一
本社住所変更 リース賛助会員 昭和リース(株)
〒135-8528 東京都江東区東雲1-7-12 KDX豊洲グランスクエア4階
機械設備営業部 TEL 03-6219-1470 FAX 03-6219-1471

行事予定

中部地区工場見学会 12月9日(火) (株)日研工作所本社工場、(株)秋篠金型研究所他
定例理事会 平成21年1月7日(水) 八重洲富士屋ホテル
賀詞交歓会 平成21年1月7日(水) 八重洲富士屋ホテル
西部地区新春時局講演会 平成21年1月21日(水) エル・おおさか
展示会
微細精密加工技術展2009 平成21年5月28日(木)~30日(土) インテックス大阪
2009自動車部品生産システム展 平成21年6月17日(水)~20日(土) 東京ビッグサイト
メカトロテックジャパン2009 平成21年10月14日(水)~17日(土) ポートメッセなごや
EMO MILANO 平成21年10月5日(月)~10日(土) イタリア・ミラノ

編集後記

11・12月合併号をお届けします。早いもので2008年最後の発行となりますが、今年も様々な出来事がありました。その中でも、やはりサブプライムローン問題から端を発した世界金融危機が最も大きな出来事ではないかと思えます。地域的な火事で収まると思っていたら、むしろ折からの強風の影響を受けてどんどん拡がり思わぬところまで延焼し、ついには大火になってしまったという感じです。リーマン・ブラザーズの経営破綻、強者の代表であったビッグスリーの危機と言った今まで考えられなかった事が次々と起き、またこれからも何が起きてもおかしくないといった状態と思えます。泥沼状態となっているイラク問題などに加えて大恐慌の兆しさを感じる状況の中で、アメリカ国民は現状からの打破を期待した大統領を選出しました。今、私達は世界が大きく変化していくうねりの真ただ中に居り、わが国の政府が思い切った政策をしていただかないといつの間にか世界から取り残されてしまうことになるのではないかと心配になります。

今年のSE教育もお蔭様で多数の受講者が参加してくれました。教育委員会も毎年アンケートを参考にしてカリキュラムを工夫しています。毎回のことで少し気になることがあります。どこの会場も開始時間に数人遅れてくるという問題です。営業マンとしてまず大事なことは約束の時間に遅れない事は論をまぢません。初めての訪問先であれば地図で所在地を調べ、不測の事態に備え少し早めに到着するように考えるはずで。受講生の遅刻はとても気になります。

日工会の10月受注確報は前年同期比40%減の815億円と大変厳しい結果となり、2004年4月から続いていた受注総額連続1,000億円超えも53か月でストップしてしまいました。特に内需は前年同期比42.1%減の365億円となり2003年8月以来62か月ぶりの400億円割れとなってしまいました。9月受注が上期末でありながら前年同期比20.1%減、また内需では同32.1%減と大きく減速しており10月の受注が注目されていましたが、覚悟はしていたものの落ち込み方が急速です。こうした動向が10月が底として一時的な現象であって欲しいものです。

「日工販ニュース」 Vol.20 - No.11・12

平成20年12月15日発行

発行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者 専務理事 宇佐美 浩
編集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成20年12月1日現在

正会員(全72社)

[東部地区(36社)]

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株)カネコ・コーポレーション
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 (株) 群 馬 工 機
 (株) 国 興
 (株) 三 機 商 会
 三 洋 マ シ ン
 サ ン ワ 産 業
 シ マ モ ト 技 研
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 双日マシナリー(株)
 太 平 興 業
 (株) 高 橋 機 械
 帝通エンヂニヤリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 (株) T E M C O
 トッキ・インダストリーズ(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a I T O
 (株) ナ 子 常 盤
 日 鋼 商 事
 藤 田 総 合 機 器
 松 茂 工 販
 三井物産マシントック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 ユ ア サ 商 事
 米 沢 工 機

[中部地区(20社)]

石 原 商 事
 (株) 井 高
 岡 谷 機 販
 カ ト 一 機 械
 釜 屋
 岐 阜 機 械 商 事
 甲 信 商 事
 三 栄 商 事
 三 機 商 事
 サ ン コ ー 商 事
 三 立 興 産
 下 野 機 械

(株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 会
 浜 松 貿 易
 (株) 不 二
 山 下 機 械
 ワ シ ノ 商 事

[西部地区(16社)]

赤 澤 機 械
 伊 吹 産 業
 植 田 機 械
 (株) お じ ま
 関 西 機 械
 京 華 産 業
 五 誠 機 械 産 業
 桜 井 機 械
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大 幸 産 業
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 西 川 産 業
 日 本 産 商
 マ ル カ キ カ イ
 宮 脇 機 械 プ ラ ン ト
 (株) 山 善

賛助会員(全73社)

[製造業(56社)]

(株) ア マ ダ ワ シ ノ
 (株) エ グ ロ
 S M C
 エヌティーツール(株)
 (株)MSTコーポレーション
 エ ン シ ュ ウ
 オ ー エ ス ジ ー
 オ ー ク マ
 大 阪 機 工
 (株)岡本工作機械製作所
 (株)神崎高級工機製作所
 (株)北川鉄工所
 キ タ ム ラ 機 械
 キ ャ ム タ ス
 京 セ ラ
 (株)グラフィックプロダクツ
 コ マ ツ N T C
 黒 田 精 工
 (株) ジ ョ イ テ ク ト
 (株)シギヤ精機製作所
 新 日 本 工 機
 住友電工ハードメタル(株)
 (株) ソ デ ィ ッ ク

大 昭 和 精 機
 (株) 太 陽 工 機
 高 松 機 械 工 業
 (株) 滝 澤 鉄 工 所
 (株) ツ ガ ミ
 津 田 駒 工 業
 (株) 東 京 精 密
 東 芝 機 械 マ シ ナ リ ー
 東 洋 精 機 工 業
 (株)ナガセインテグレックス
 中 村 留 精 密 工 業
 (株)日研工作所
 日 本 デ ィ エ ム ジ ー
 (株) パ ト ラ イ ト
 浜 井 産 業
 日 立 ツ ー ル
 フ ァ ナ ッ ク
 富 士 機 械 製 造
 ブ ラ ザ ー 販 売
 豊 和 工 業
 牧 野 フ ラ イ ス 精 機
 (株)牧野フライス製作所
 (株)松浦機械製作所
 三 井 精 機 工 業
 (株) ミ ツ ト ヨ
 三 菱 重 工 業
 三 菱 電 機
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株)森精機製作所
 安 田 工 業
 ヤ マ ザ キ マ ザ ッ ク

[リース業(17社)]

N T T ファイナンス(株)
 共 友 リ ー ス
 近 畿 総 合 リ ー ス
 興 銀 リ ー ス
 首 都 圏 リ ー ス
 昭 和 リ ー ス
 GEフィナンシャルサービス(株)
 J A 三 井 リ ー ス
 住 信 リ ー ス
 東 京 リ ー ス
 東 銀 リ ー ス
 東 芝 ファイナンス(株)
 日 本 機 械 リ ー ス 販 売
 日 立 キ ャ ピ タ ル
 三 井 住 友 ファイナンス&リース(株)
 三 菱 電 機 クレジット(株)
 三 菱 U F J リ ー ス